

タンポポの特徴と滋賀県の生育種

タンポポの2つの特徴



1. 一つの茎には、一つの花（頭花）のみ

茎が途中で分かれて、その先に別の花をつけることはありません。

*小さな花(小花)が多数集まって、一つの花の形をなしているものを頭花といいます。



2. 葉は地面に沿って広がる

葉は、地面を放射状に広がるロゼット葉です。ただ、他の草が伸びてくると、光を受けようとして、葉先が立ち上がることがあります。

滋賀県で見られる8種類のタンポポ

花は白色～淡いクリーム色



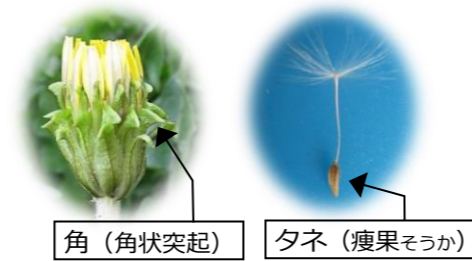
シロバナタンポポ

- ・大型 (3.5～5 cm位)
- ・白色
- ・やや開く
- ・内片の半分以上
- ・大きな角あり
- ・茶褐色
- ・2月下旬～5月中旬
- ・茎が長くなる

- 花の直径—
- 花の色—
- 総苞外片の向き—
- 総苞外片の長さ—
- 角(つの)—
- タネの色—
- 花の時期—
- その他の特徴—

キビシロタンポポ

- ・やや小型 (3～4 cm位)
- ・淡いクリーム色 (特に中心部)
- ・内片にくっつく (やや開くことも)
- ・内片の半分くらい
- ・ほとんどなし (小さい角があることも)
- ・黒褐色
- ・3月～5月中旬
- ・甲賀市でよく見られている



季節が進むと、花の黄色は薄らぎます

* 花が咲く時期は、地域や場所によって、また年によっても変わります

花は黄色

黄花の種別写真と説明を、総苞外片が上を向いているグループ (在来種) と下を向いているグループ (外来種) に分けて示しています。

なお、総苞外片が横や斜め下に向いているものは、雑種の可能性が高いです。

総苞外片が上向き 【在来種】



カンサイタンポポ

セイタカタンポポ

ケンサキタンポポ

トウカイトンポポ

	カンサイタンポポ	セイタカタンポポ	ケンサキタンポポ	トウカイトンポポ
花直径	・小型 (2～3 cm)	・大型 (4～5 cm位)	・大型 (4～5 cm位)	・大型 (4～5 cm位)
外片の向き	・内片にくっつく	・内片にくっつく (やや開くものも)	・内片にくっつく (やや開くものも)	・内片にくっつくか、やや開く
外片の長さ	・内片の半分以下 (1/3 くらい)	・半分程度 (半分弱)	・半分程度 (半分強)	・半分以上 (2/3 くらい)
角(つの)	・なし (あっても1 mm以下)	・なし (小さい角があるものも)	・大きな角(2 mm以上)	・大きな角(2 mm以上)
花粉サイズ	・均一	・均一	・バラバラ	・均一
花の時期	・3月中旬～5月中旬	・4月中旬～5月中旬	*	*
他の特徴	・小花の数が少ない	・茎が長く伸びる		
県内分布	・広く分布するが、北部では少ない	・県北部に分布	*	・東海地方に分布 県内には多くない?

*ケンサキタンポポとトウカイトンポポの県内分布および花の時期は、あまりはっきりしていません。この調査で、みんなで調べてみましょう。

総苞外片が下向き 【外来種】



外来種にはセイヨウタンポポとアカミタンポポの2種があります。ともに、花粉サイズはバラバラで、在来種に比べて総苞の緑色が濃い特徴があります。

この2種は外見的にはそっくりですが、タネができる、その色で区別できます。



セイヨウタンポポ

- ・タネの色は茶褐色
- ・花は主に2月～6月



アカミタンポポ

- ・タネの色は赤褐色
- ・乾燥した場所に生育?

写真および図はすべて前田雅子が撮影、作図